

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 325 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2011.12.15（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の  
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\*発行部数 1190 部\*\*\*\*\*

□ 目次 □-----

<巻頭言> TPP 参加せず農業持続政策を急げ 田口三樹夫

<山崎農業研究所 第 141 回定例（現地）研究会>

速報（要旨） その 2——夢いちご生産組合と生産再開の状況

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.126』発行されました

<編集後記> TPP は“地域”を活性化させるのか否か

---

<巻頭言> TPP 参加せず農業持続政策を急げ

---

TPP は、新自由主義に基づいたグローバルな貿易自由化を実現するテコとして、「例外なき関税撤廃」をめざすアメリカの経済戦略の一環であり、ここに TPP 問題の本質がある。ウルグアイランドから WTO へのながれのなかで、当時の自民党政権はコメの例外扱いに漕ぎつけたが、ミニマムアクセスの代償は大きかった。輸出産業の発展の生贄として農産物は自由化の波に飲み込まれた苦しい過程を引きずってきた。

TPP は農産物のみならず 24 分野で「例外なき自由化」を実現しようというのであるから、これまでの経過を総括して、民主党政権は国民の前に政府としての基本的方針を具体的に提示すべきである。農水省の予測によると、関税撤廃した場合、農産物の生産量減少率はコメ 90%、コムギ 99%、牛乳・乳製品 56%、食料自給率はカロリーベースで 13%に低下するという。私は、その試算の妥当性は分からないが、大きな打撃を受けることは間違いない。

TPP 推進論者の山下一仁氏は日本のコメの高品質について世界的な評価を得ているから、むしろ減反廃止でコスト低減を図れば競争相手国の関税撤廃で輸出の可能が増すという。農業生産の実態を知らない机上の推論であるが、財界の意見と同根である。

反対論の農協サイドでの意見は、関税を撤廃すれば日本農業が壊滅するとし、コメ輸出の可能性はなく、また農業は生産だけではなく国土保全、環境と生態系の維持を担い、さらに兼業農家も集落営農で発展させる条件があると主張している。農業サイドの意見は従来からの主張を体系的に述べるものとして自明である。

民主党は「コンクリートから人へ」という政治スローガンに立ち戻って党内意見を集約し、わが国の生存基本として農業持続政策を確立すべきである。その上で第一は、TPPに参加しないこと。もし参加するとしても農業持続政策が容れられなければ離脱する決意を持つことを希望する。そして本腰を入れた農業持続の具体的な政策をうち出して国民に信を問う必要がある。

田口三樹夫

山崎農業研究所幹事

yamazaki@yamazaki-i.org

---

<山崎農業研究所 第141回定例(現地)研究会> 速報(要旨) その2

期日:2011年11月25日(金)

場所:宮城県下 山元町および名取市

テーマ:震災被害地の状況視察とその取り組み、および復興への方向性を探る

参加者:17名

---

■速報(要旨) その2——夢いちご生産組合と生産再開の状況

組合は10余年前に9戸の農家により設立され、山元町の南と北の2ヵ所にハウス団地を造成した。うち北の山下地区の団地で津波による全壊を免れ、4戸がいちごの生産再開を図っている。その1戸の経営主である深沢政一氏(61才)からお話を伺った。

ここの地区は海岸から1km位のところにある。この一帯が波に掠われたが、津波が襲来してくる方向に防風(砂)林があったので助かった。全壊を免れたのは大型の連棟ハウスで、高設栽培方式としている。3月の被災でハウスは倒壊しなかったものの、1m位海水に浸かって停電・断水を来たし、盛んだった収穫を以後あきらめるとともに株も枯死させてしまった。ただ、苗取りで2段栽培していた親株のみは無傷に保ちえて、この冬からの生産再開につながられた。

品種は‘とちおとめ’である。

この大型連棟ハウスの自分の面積は 35 アールで、近くの別のところでやっていた 30 アールの従来型のパイプハウスについては全壊した。山下地区では、多くが従来型のパイプハウスで約 120 戸のいちご栽培の農家があったが、同じように被災して生産再開を目指しているのは 12 戸と少ない。

総被害額は正確には言えないが、分かっているものを上げるだけでも、自分のところで 6、7 千万円はあろう。35 アールの大型連棟ハウスでは、床土は何とか入れ替えることもなく栽培できる状態に戻せたものの、電気や給水（養液）関係の機器システムの修復に多額を要した。それと新築して 3 年の自宅が改修しないと住めない状況となった。この被害額が大きい。更に、ボランティアの皆さんにガレキの処理をしていただいているものの、従来型のパイプハウスを立てていた農地などの復旧はこれからであり、その被害額等を加えると総額はもっと大きくなろう。

いちご生産での営農では、1 人当たり 15 アール位の規模が必要で、自分たちと息子夫婦とでやっているから、今の 35 アールのままでは不足で、倍くらいの規模を考えねばと思う。とはいえ、これから先の営農は息子夫婦のほう为主体になっていくのでどう考えるか、息子たちに期待するほうの思いをこのところ強くしている。

自家だけでなく、農家の全般が高齢化してくるなかで、販売活動など今後どのように対応していくべきか、難しい選択に迫られている。例えば、新しい品種が各地で育成されるが、育成県に限って栽培が認められる場合があり、必ずしも自由に作れるわけではない。この辺もネックである。引き続きいちご生産をやろうと北海道の伊達市に移住した、若い農家 4 戸の例も出ている。

行政は、この辺りは危険地帯として基本的に集落の移転を考えている。被災した住宅について、従来とおりに再び建てられない。近くを走っている県道について、防災目的で 3m 位の嵩上げをする計画があるが、土地利用計画も定まっていない。この広大な被害農地の修復、管理を今後どのようにしてゆくか。再興には難しい問題が多い。

（文責：安富・石川）

---

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.126』発行されました

---

山崎農業研究所所報『耕 No.126』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000 円）いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

目次（抜粋）

《土と太陽と》（巻頭言）

アグロノミストとして、太陽エネルギーの利用を考える◎塩谷哲夫

[第 138 回定例（現地）研究会]

小川光氏 山崎記念農業賞を祝う会

研究会——ものづくり・ひとづくり・むらづくり をめぐって

参加者の声 成尾和浩／永井智一／若松美香／益永八尋

[第 139 回定例研究会] 循環型社会と農業——とくに畜産との関係から

I 安全・安心こそいのち——牛飼い雑記◎峯村富治

II 有機性資源の循環利用による土の健康

——総合的養分管理の重要性◎松村昭治

[第 140 回定例研究会] 蘇れ、山と森と林

I 荒れ山を逆手にとれ！ 木のある暮らしの実践と楽しみ方◎大内正伸

II 荒れる人工林：森林管理から木材利用まで林業再構築をめざして◎鋸谷 茂

〈連載〉畦道・赤トンボのナショナルリズム [17]

科学とナショナルリズム／宇根 豊

---

<編集後記> TPP は“地域”を活性化させるのか否か

---

いま山崎農業研究所所報『耕』の編集中である。今号では、各地の会員（定点観測員）に TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）について意見を求めている。

そのなかに TPP が地域の農業や経済に与える影響がよくわからない、というのがあった。わからないことが多すぎるのが、今後の方向性が見えないのがこの TPP の特徴でもある。

先日（12/10）、内山節さんの講演を聞く機会があった（国民森林会議主催「山村の現状と将来」）。内山さんは、「TPP が“日本”という国にとって有

利か不利かという捉え方をしたのではいけないと思う。そうではなくて、TPPが“地域”を活性化させるのか、それともそうではないのかという点から考えなくてはならないのではないかと

“日本の”という言い方・ものの見方が役に立たないというのは、佐賀県の農民作家・山下惣一さんもしばしば指摘している。「“日本農業”とよく言われますが、あなたはそれを見たことがありますか？ わたしがわかるのは自分のやっている農業、むらの農業くらいのもんです」。そんなふう

たしかに、“日本の”といったとたんに話が見えなくなることは多い。年の末、師走の頃ではあるが、TPPについてどこから考えたらよいのかを、内山さんの言葉は物語っているのではないかと

2011年12月15日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

---

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575円)

[http://shop.ruralnet.or.jp/b\\_no=01\\_4540082955/](http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/)

たくさん

---

◎辻信一さん (文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)

グローバルの次は何? ~卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん (大地を守る会)

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん (長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

[http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry\\_id=1822182](http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182)

◎関良基さん (拓殖大学政経学部)

ブログ：代替案 書評：『自給再考 ―グローバル化の次は何か』  
<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」  
<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん（大妻女子大学）

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）

月刊とちぎ V ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん（半農半 X 研究所、執筆者）

ブログ：半農半 X という生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

---

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

---

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

-----  
次回 326 号の締め切りは 01 月 10 日、発行は 01 月 12 日の予定です。

---

<本誌記事の無断転載を禁じます>

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 325 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2011.12.15（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\* ここまで『電子耕』 \*\*\*\*\*